

あり地中海より三哩、運河によつて通じ、市には一二八〇年頃に建てられた城壁及び塔がある。人口約四萬五千。

新著紹介

○地球化學

高橋純一譯

内田老鶴閣發行

定價六圓五十錢

本書はヴェルナドスキー教授著述の譯訂である。高橋博士は巴里留學に際したまゝ、祖國ロシアの難をさけて巴里ソルボンヌに來り地球化學の講義をしてゐたのを聽講した關係があり、原著には其後二回に亘つての改訂増補もあり、併せて原著者から邦譯を奨めて來たので原著獨逸版によつて本書を爲したとは同博士の卷頭に序する所である。蓋し地球化學が最近十年間に著しい發達を遂げ、今も猶日に日に新なる研究が續出するに際し、この學の歴史的發達と其一般概念を明にした本書が新刊されて、本邦の學界を裨益することは申迄もない事である。本書は第一に地球化學の概念及其發達史をのべ、次に化學元素の地殻に於ける產出狀態、マンガンの地球化學、地球化學輪廻のエネルギー、地殻の珪素及び珪酸物地殻に於ける炭素と生物質、地殻に於ける放射能元素の六章がそれ／＼興味ぶかいトビックの下に説明されてあつて菊版

横組五百二十三頁の大冊となつてゐる。我等はこの書によつて地殻の化學的成立要素をしり、今日迄に考へてゐたよりもよりふかく自然と人生との關係を學ぶことが出来るのを喜び敢て江湖に本書を推奨する。(藤川)

○ヴァルーンの地理學 下卷

内山賢次譯

厚生閣出版

定價二圓五十錢

上卷は既に出版されてゐる。本書は地理の讀本として米國で好評をうけたものを譯したもので上卷に歐洲、下卷にアジア・オーストラリア・アフリカ・アメリカが面白く書れてゐる。今日までの地理の理論と、其國の歴史と現狀といつたものを國ごとに簡明にかいてある。日本の膨脹する止むに止まれぬ勢といつたものも、正しく理解して説明されてゐる。世界の當面の問題にふれた流暢な著述である。小中學の先生方に、よい參考書となることを保證する。(藤川)

○滿洲國地名便覽

豐田慶一編

滿洲文化協會發行

定價一圓

本書は新版滿洲國地圖の索引であつて、地名の便覽ではない地名が漢字でかいてあつても、讀方の假名がないからである。滿洲の五萬分一的地圖はすべて漢字に假名がある。故にそれをもて、統一した讀方をつけるでなくては、地名便覽とはならない。(F)